

NPO法人がある地域のつながり

社会福祉学部 社会福祉学科 2年 丸茂歩基

活動先：NPO 法人 地域福祉サポートちた

ゼミ：野尻紀恵 先生

私は今回のサービ斯拉ーニングで中間支援という新しい発見をした。NPO法人がある地域のつながりについて学ぶことが出来たと考える。活動先では、誰もが自分で望んでいる地域で、自分らしく生き、心豊かに幸せに暮らしていける地域づくりを目指すという願いを持って、地域の中で活動していることを感じた。また、人材育成・研修、情報交流促進事業、啓発・相談事業、市民活動支援事業などの活動が中間支援の活動であり、たくさんのNPO法人や市民活動団体などが地域にあることで、団体の交流、つながり、ネットワークづくりをしていく必要があるということを私は学んだ。中間支援は、間接的な支援である。私は、準備ではどのような活動をするのができるのか、何を行えばよいのかと悩んだ。しかし、地域で私のような学生が活動を行うことで何かが出来るとも思えないかと思い、知多青年会議所と共同で行っている「楽ちた楽祭」について考えることにした。

活動内容は、「楽ちた楽祭」という秋祭りにサービ斯拉ーニングとして模擬店を出店することと、楽ちた楽祭の実行委員会の人たちの会議に出席し、祭りを一緒に運営することになった。模擬店としては、他の模擬店に関する問題のスタンプラリーを行った。活動の目的は、市民参画で手作りのイベントを開催することで、市民・事業者・市民活動団体はイベントが出会いの場となり、これをきっかけに連携・協働関係をお互いにつくることである。サポートちたがある知多市市民活動支援センターで行うことにより、地域の方々に市民活動団体がたくさんあることを知ってもらえる機会になる。また、次世代の地域作りのため、次世代の交流が必要である。若者たちが地域の方々と関わることにより、お互いに成長できる関係づくりを行い、交流の居場所支援を行いたいと私は考えている。この活動の中で、祭りの企画を行うことで積極的に企画の案を出すことで、グループとしてのつながりや地域のつながり、交流を行うことができた。スタンプラリーに来てくれた子どもたちや保護者たちや、地域の方々と積極的に自分から話していくことで、その地域のことをもっと知りたいという想いが出てきた。すべての方々と会話をしなければ、祭りをを行うことは、みんなと共にコミュニケーションを学んでいることに気づき、私から話すことができるようになった。私たちのような学生が地域の祭りの企画を立てることや運営を楽ちた楽祭の実行委員の方たちと関わることで、その地域のことをよく理解できる。関わらなければ、学びは少なく、私自身成長できないと思う。NPO法人の方たちも学生が関わることにより、議論が活発になり、さらには祭りを来年もやるという意見も出た。

「楽ちた楽祭」は子どもから若い学生、高齢者の方たちまで幅広い年齢層が交流できる祭りとなった。この祭りで、私は次世代の交流のできる居場所について考えることができた。



活動を終えて、サポートちたとの振り返りやゼミの中での振り返りでたくさんの地域課題を発見できた。年代の異なる方々と関わることを通して、全体的にみると、若者が少なく、若者の地域離れがあることに気づいた。また、子どもたちと関わることで、保護者と一緒に子育てを通して地域のつながりをつくっていくことができるのではないかと考えた。顔が見える関係をつくり、次に活かすことができると私は考えている。サポートちたは、地域をよりよくしていくために、知多市で新しい人たちを巻き込み、知多市のまちづくりのためにそれぞれの良さを活かしたい、市民活動団体と一緒にまちづくりをしていきたいという思いを感じた。私は、外に出る、地域に出ることでサポートちたの活動の幅が広がるのではないかと考えている。他の団体とさまざまな機会において出会うことで、つながりがさらに広がるのである。中間支援をNPO法人が行っているところは少ない。主に社会福祉協議会が中間支援を行っている。私は、社協とNPOの中間支援には、違いがあることを学んだ。活動にかかるお金や人件費や組織が立ち上がった理由などの違い、自由度の高さで予算に縛りがあることに違いがあるようだ。これからの中間支援には学生も関わることでNPO法人と学生の間での相互作用ができ、世代の交流やつながり合っていくことで中間支援の幅が広がると考えることができた。

私はサービスマーケティングをサポートちたで行い、私自身の成長や新しい発見や多くの学びを得ることができた。これからは自らいろいろな地域に出で、この経験で吸収したことを次につないでいきたい。中間支援は支援者が困りごとを持ってくること、それを吸い上げることによって、地域の中にある生活課題がどのような状況なのかがわかるのである。「楽ちた楽祭」を通して、地域みんなの思いが一つになることを体験し、私は感動した。これからは学んだことを地域で活かして、継続していくことが大切であり、必要なことである。現場の方たちから必要なものをつくろうという思いで設立したサポートちたの思いを大切にしていきたい。地域の中でNPO法人と地域の人々がお互いに知ること、関わり合うこと、そして共感することで自分らしく豊かな生活をしていくことが求められていると私は考えている。知多地域の基盤をつくり、ネットワークをつくっているサポートちたでのサービスマーケティングを行って、私自身のネットワークが広がった。地域は人々でつくっていき、人々を地域はつくっているのである。そして、人としての大切さ、存在に感謝の気持ちを常に持ち続けて、これからは私の住む地域での活動をしていきたいと考えている。

来年もまた2年生がサービスマーケティングを行う。それはさらに学年のつながりをつくることになる。そのつながりをつくることは大切だ。私はそのようなつながりをたくさんつくり、学生が地域の中に入り込むことで地域の活性化になることを考えていきたい。